

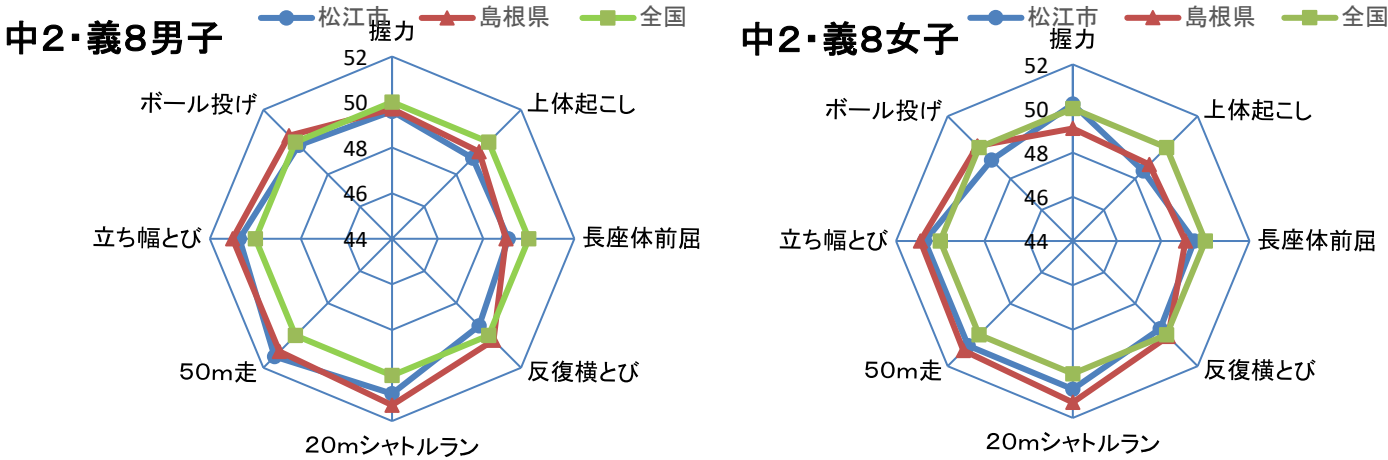
令和4年度 体力・運動能力調査結果及び分析・対策(松江市・中学校及び義務教育学校後期全体) 令和5年3月29日

(1)【前年度との比較】松江市立中学校及び義務教育学校生徒の体力の現状

	前年度の松江市と比較した概要(前年度の平均を1とした場合の今年度の達成率を表したもの)		握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ボール投げ
	学年	人数	筋力	筋持久力	柔軟性	敏捷性	全身持久力	スピード	筋パワー	巧緻性
男子	中1	692	1.000	1.048	1.040	0.992	0.996	1.014	1.015	1.044
	中2	651	1.002	0.993	0.997	0.978	0.958	1.006	1.006	0.974
	中3	724	1.007	0.986	0.978	1.002	0.959	1.004	0.980	0.990
	◎「握力(筋力)」「上体起こし(筋持久力)」「50m走(スピード)」については前年度を上回る学年が多い。 △「シャトルラン・持久走(全身持久力)」については全学年が前年度を下回り、大きく低下している学年もある。									
女子	中1	710	0.991	0.993	0.983	0.972	0.970	0.998	0.969	0.997
	中2	680	0.982	0.990	1.011	0.988	0.940	0.991	0.987	0.948
	中3	733	0.985	0.994	0.953	0.989	0.886	0.995	0.976	1.027
	◎「上体起こし(筋持久力)」「50m走(スピード)」については前年度とほぼ同水準。 △「長座体前屈(柔軟性)」「ボール投げ(巧緻性)」は前年度比では学年差が大きい。 △「握力(筋力)」「反復横跳び(敏捷性)」「立ち幅跳び(筋パワー)」は全学年で微減。「シャトルラン・持久走(全身持久力)」は大きく下回っている。									

評価指数
1.030以上
1.000以上
0.990以上
0.970以上
0.950以上
0.950未満

(2)【R4全国及び鳥根県との比較】松江市立中学校2年生及び義務教育学校8年生 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果(全国平均を50としたときの比較)



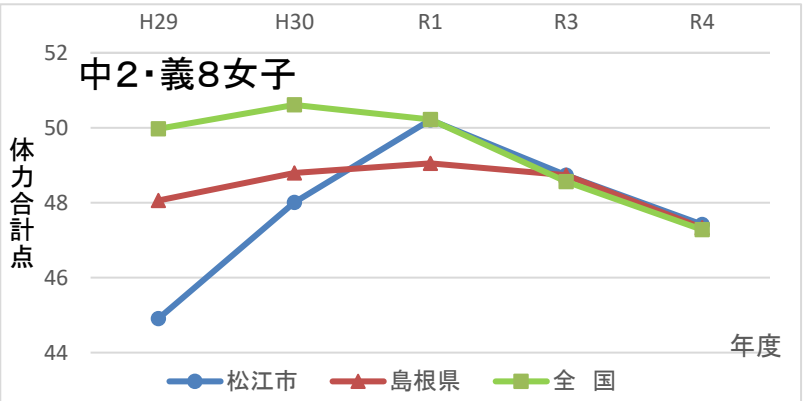
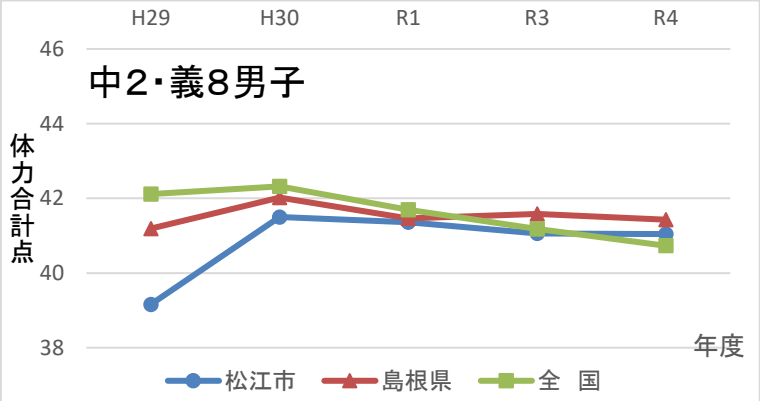
義8中2男子	◎「50m走(スピード)」「立ち幅跳び(筋パワー)」は県と同水準で全国より高い。 ○「シャトルラン(全身持久力)」は県を下回っているが、全国よりは上回っている。 ▲「上体起こし(筋持久力)」「長座体前屈(柔軟性)」「反復横跳び(敏捷性)」は全国を大きく下回っている。
義8中2女子	◎「50m走(スピード)」「立ち幅跳び(筋パワー)」は県と同水準で全国より高い。 ○「シャトルラン(全身持久力)」は県を下回っているが、全国を上回り、「握力(筋力)」は全国と同水準で県を上回っている。 ▲「上体起こし(筋持久力)」「ボール投げ(巧緻性)」は全国を大きく下回っている。

(3)松江市立中学校2年生及び義務教育学校8年生 全国体力・運動能力調査 体力合計点の推移(過去5年間まで)

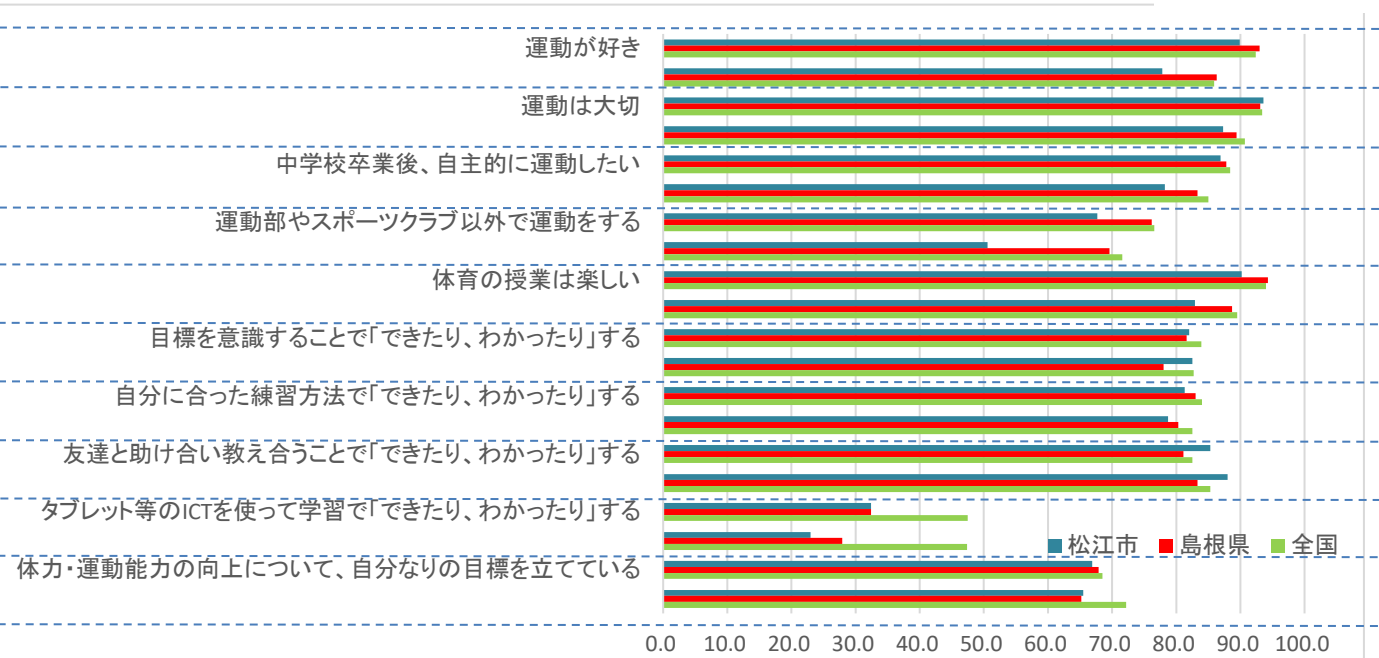
中2・義8男子	H29	H30	R1	R3	R4
松江市	39.16	41.5	41.36	41.06	41.04
鳥根県	41.19	42.02	41.46	41.58	41.43
全 国	42.11	42.32	41.69	41.18	40.73
中2・義8女子	H29	H30	R1	R3	R4
松江市	44.91	48.01	50.21	48.73	47.42
鳥根県	48.06	48.79	49.05	48.73	47.33
全 国	49.97	50.61	50.22	48.56	47.28

※体力合計点とは、男女別
種目別得点表により9種目
合計得点を表したもので
す。

※令和2年度は中止



(4)松江市立中学校2年生及び義務教育学校8年生 全国体力・運動能力、運動習慣等調査 意識調査の結果 項目 上段:男子
(松江市教育委員会として注目しているものを挙げています)



(5)松江市立中学校及び義務教育学校生徒の意識・実態調査から見られた傾向

	全国や県平均と比較した概要	
男子	義8中2	・「運動が好き」「運動は大切」「体育の授業は楽しい」について、肯定的回答が90%を超えている。 ・「友達と助け合い教え合うことでできたりわかったりする」について、肯定的回答が全国・県平均を上回っている。 ・授業の中でわかったりできたりする項目について、肯定的な回答が全国と比べて低く、ICT活用については特に低い。
	他学年	・「ほとんど運動をしない」の割合が全学年とも増加している。 ・「朝食を毎日とる」の割合が全学年とも90%を切っている。 ・全学年で「睡眠時間が6時間未満」の割合が前回より増加しており、特に2・3年生は2〜4%増加している。
女子	義8中2	・「運動は大切」「友達と助け合い教え合うことでできたりわかったりする」について肯定的回答が90%に迫っている。 ・「運動部やスポーツクラブ以外で運動をすること」について、肯定的回答の割合が低い。 ・授業の中でわかったりできたりする項目について、肯定的な回答が全国と比べて低く、ICT活用については特に低い。
	他学年	・「ほとんど運動をしない」の割合が全学年とも増加している。 ・「朝食をとらない」割合が全学年で微増している。 ・全学年で睡眠時間が「6時間未満」「8〜9時間」の割合が減少し、「6〜7時間」が増加している。

(6)主な課題及び今後の取組の視点

主な課題
・体力合計点の推移をH11から長期的な視点でとらえると上昇傾向にあるが、H30以降、連続して前年度の値を下回っている。(スポーツ庁) ・「シャトルラン(全身持久力)」の項目が前年度比較及び、全国的な傾向から対策が必要。 ・意識面では、「運動好き」「自主的に運動」「体育の授業は楽しい」が県や全国に比べて低く、運動能力だけでなく、運動に対する意識の向上を図る必要がある。 ・授業の工夫により「できたり、わかったりする」ことについて、全体的に県や全国よりも低い項目が多く、個別最適な学びの視点をもった授業改善が必要。
今後の取組の視点
1. 具体目標の設定 ○学校教育活動としての全体での体力づくり推進 ・年度始め:入力シートを活用した課題の把握及び体力向上推進計画による各校の実態に応じた達成(数値)目標を設定 ・年度途中:2・3学期の具体的な改善策 ・年度終り:公表シートによる達成度の把握及び体力向上推進計画による次年度の計画(4月からの取組) ○生徒自身が体力の現状を把握 ・個票の活用による体力調査結果の把握(生徒自身が目標をもって取り組む) 2. 授業 ○体を動かす時間の十分な確保 ・一部の生徒だけでなく、一人一人が運動量を確保できるよう工夫 ・各校の重点的に行う内容や継続的に行う活動を整理 ○技能差によらない多様な楽しさや充実感を得られる授業の工夫 ・ねらいを明確にした授業の充実 ・一人一人が自分の目標をもって取り組むことができる個別最適な学び ・協働的な学びによる学びの深化 ○運動領域の特性に合わせたICTの活用 3. 「つながり」を生かした取組 ○委員会活動や学校行事、学級活動、部活動との「つながり」 人と人とのつながりをいかした取組の工夫 ○地域やプロスポーツ選手等との「つながり」 「夢の教室」等、スポーツ選手学校訪問事業推進 ○松江市中学校体育連盟や松江市教育研究会体育部の「つながり」 4. 体力向上推進計画に基づく指導主事による学校訪問 ○各校の目指す子どもの姿及び研究の方向性をもとにした指導助言